



# サービス 通信

富士重工業株式会社

本社：東京都新宿区

西新宿1-7-2 (スバルビル)

NO. FAS-012A

発行 44年12月12日

改訂A 47年2月3日

1. 標 題 ・ バッテリーの点検
2. 適用機体 FA-200シリーズの機体で製造番号#12~#127号機迄の機体で、部品番号200-383600-001バッテリーを装着している機体。 A
3. 適用度 必須事項
4. 目的 バッテリー液入れ過ぎ、及びバッテリー・カバー取付等の不完全なため、バッテリー液が機体内に洩れるおそれがあるため。
5. 指 示 バッテリー状態を点検する。手順及び点検項目は13及び14項に従うこと。不具合が発見された場合は富士重工に連絡のこと。
6. 実施時期 このサービス通信受領後、直ちに行い、その後50時間点検毎に行なう。
7. 承 認 航空局承認済 (NO. 315) 45.1.21
8. 所用部品 な し
9. 特殊工具 な し
10. 重量重心 変化なし
11. 準拠資料 な し
12. 所要工数 1MH
13. 手 順
  - 13-1. 準 備
    - (1) マスタースイッチを「断」の位置にする。
    - (2) 後席の背当をはずす。
    - (3) バッテリーに接続されている電線及びチューブを外しバッテリーを取り外す。

FAS-12A

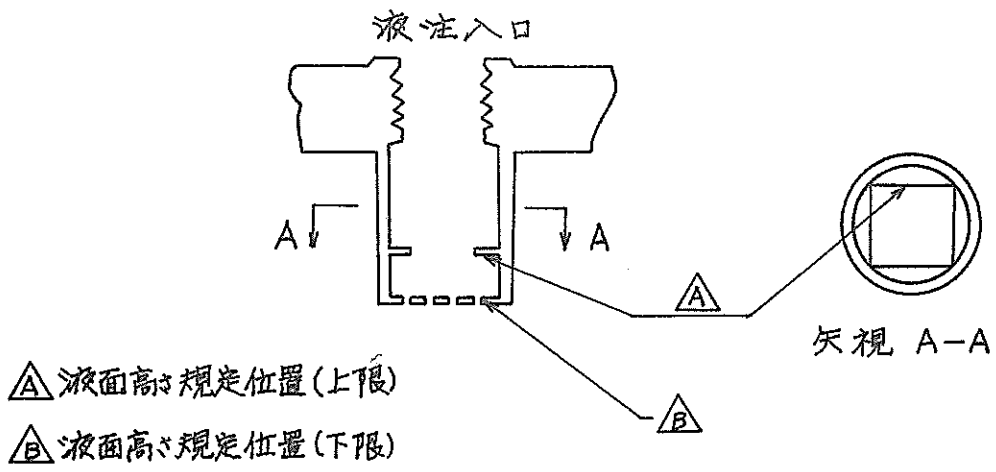
PAGE 1 OF 3

#### 4. 点 検

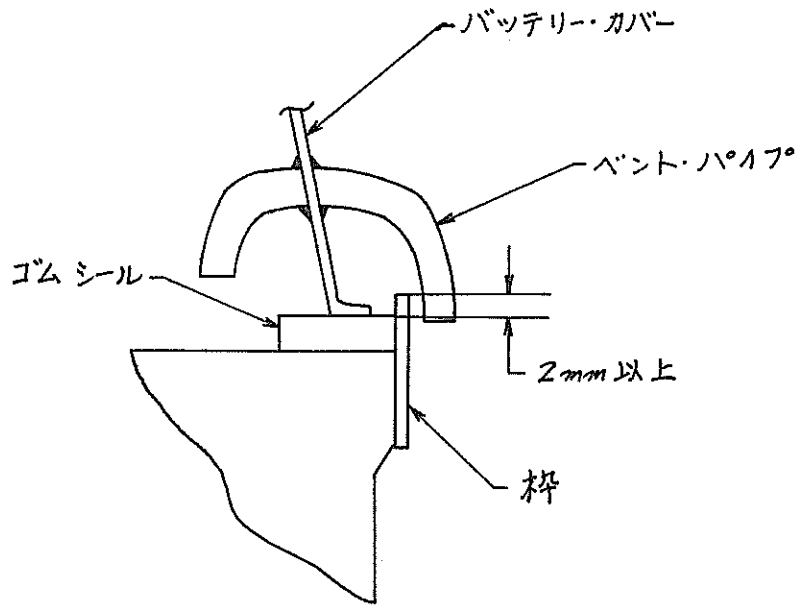
- (1) バッテリー及びバッテリー取付位置周辺の機体側にバッテリー液が洩れた形跡がないか点検する。
- (2) バッテリーを完全充電状態の後、バッテリー液面が規定通りになつているか点検する。  
液面が規定通りでないものは液面調整を行う。  
尚規定液面は液口内下部の□印の面を越えず液口内下端以上であること。  
(第1図参照)
- (3) バッテリーの液口栓を取り付け、バッテリーを逆に倒して液口栓よりバッテリー液が洩れないか点検する。
- (4) バッテリー上面周囲の枠がはがれていないか点検する。又、枠の高さがゴムシールより2mm以上出ているかどうか点検する。(第2図参照)
- (5) バッテリー・カバーに割れがないか点検する。
- (6) ベント・パイプはバッテリー・カバー貫通部において隙間がないか点検する。
- (7) バッテリーを取り付けバッテリー・カバーの締付が両端平均になるようクランプのネジを調整する。この時バッテリー・カバーのシールが全周に当つているか確認しクランプする。
- (8) 機体より突出しているベント・チューブのうち外舷側のチューブ端を水平になるように切り、内舷側のチューブは現状のまま切口が斜後方とする。(第3図参照)

#### 注 意

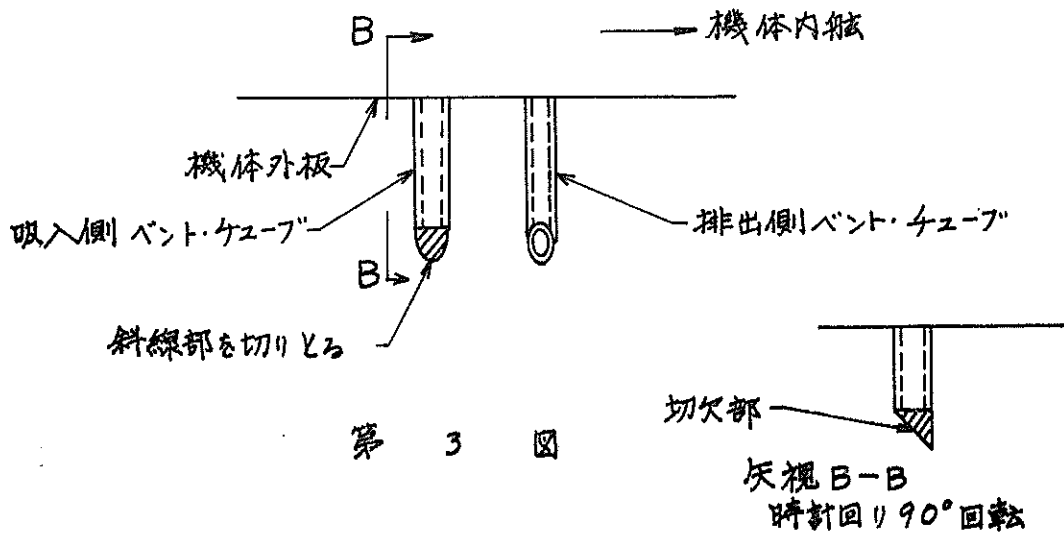
バッテリー及びバッテリー・カバーを取外した場合においても上記の諸点について留意すること。



第 1 図



第 2 図



第 3 図

